

技術情報

J A全農やまぐち

TAC 営農推進課 (083-988-0681)

平成23年7月20日 発行

第 145 号

斑点米カメムシ類の注意報発令

7月19日、水稻の斑点米カメムシ類の注意報が、県内全域に発令されました。

つきましては、被害が発生することのないよう、下記及び病害虫防除所発表の「発生予察注意報第1号(写)」を参考に、防除に万全が期されるよう、ご指導をお願いします。

記

1 注意報の予報内容

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生時期 出穂期以降
- (3) 発生程度 多

2 防除対策

- (1) 防除対策：畦畔、休耕田等の草刈り及び薬剤防除を発生予察注意報第1号(写)により実施する。
- (2) 防除薬剤：主要防除薬剤は以下のとおり。

平成23年7月20日現在

商品名	成分	使用倍率 ／ 使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分を含む 薬剤の 総使用回数
スタークル粉剤DL(普)(A)	ジノテフラン0.5%	3kg/10a	7日前まで	3回以内	4回以内 (但し散布は3以内)
ダントツ粉剤DL(普)(A)	クロチアニジン0.15%	3~4kg/10a	7日前まで	3回以内	4回以内 (但し散布は3以内)
Mr.ジョーカー粉剤DL(普)(A)	シラフルオフエン0.5%	3~4kg/10a	7日前まで	2回以内	2回以内
トレボン粉剤DL(普)(B)	エトフェンプロックス0.5%	3~4kg/10a	7日前まで	3回以内	3回以内
キラップ粉剤DL(普)(A)	エチプロール0.5%	3~4kg/10a	14日前まで	2回以内	2回以内
スタークル顆粒水溶剤(普)(A)	ジノテフラン20%	2000倍	7日前まで	3回以内	4回以内 (但し散布は3以内)
ダントツ水溶剤(普)(A)	クロチアニジン16%	4000倍	7日前まで	3回以内	4回以内 (但し散布は3以内)
Mr.ジョーカーEW(普)(A)	シラフルオフエン19%	2000倍	14日前まで	2回以内	2回以内
トレボン乳剤(普)(B)	エトフェンプロックス20%	2000倍	21日前まで	3回以内	3回以内
キラップフロアブル(普)(A)	エチプロール10%	1000~2000倍	14日前まで	2回以内	2回以内

(2) 留意事項

- ・ アカスジカスミカメは出穂後早い時期に加害するが、玄米の頂部を吸汁するため、籾摺り後も被害粒として残ることが多い。
- ・ アカスジカスミカメは畦畔のイネ科雑草に多く生息し出穂後の水田に進入するので、特に発生の多い本年は畦畔の草刈りは重要である。なお、出穂直前の草刈りはカメムシ類のほ場への侵入を助長するので、出穂2週間前までに実施する。
- ・ 本年は梅雨明けが早く、7月16日現在の一ヶ月予報では気温はやや高い予報で、夏期の高温乾燥で斑点米カメムシ類の水田への侵入が助長される可能性がある。

平成23年7月19日
山 口 県

病虫害名 水稻の斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ等）

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 出穂期以降

3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 7月11～14日の雑草地等での20回すくい取り調査では、斑点米カメムシ類のすくい取り虫数が122頭で平成（54頭）に比べ多く、特にアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシが多かった（図1）。
- (2) 県内4か所の予察灯における6月1日～7月5日の斑点米カメムシ類の誘殺数は、1,952頭で平成（377頭）に比べ多く、約5.2倍であった（図2）。

5 防除方法

- (1) 畦畔、休耕田等の草刈り
カメムシ類が増えるのを避けるため、出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、それ以降もイネ科雑草（エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等）の穂が出ないように管理する。
- (2) 薬剤防除
ア 8月上旬までに出穂するほ場では、穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を徹底する。
イ 8月中旬以降に出穂するほ場では、穂揃期の防除を徹底する。
ウ 薬剤を散布した後もほ場でカメムシ類の発生が見られる場合は、さらに7日後に追加防除を実施する。
エ 防除薬剤は平成23年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂直前及びその後の草刈りは、カメムシ類の水稻への移動を促し加害を助長するので避ける。
- (2) 休耕田の雑草が繁殖源となる場合が多いので、休耕田の除草を徹底する。
- (3) 周囲よりも出穂の早いほ場、休耕地や雑草地周辺のは場はカメムシ類による被害が多くなるので防除を徹底する。
- (4) カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) ホソハリカメムシ等大型のカメムシ類が認められるほ場では、穂揃期と穂揃期7日後の2回防除を行う。
- (6) アカスジカスミカメ等小型のカメムシ類の発生が大半を占めるほ場では、粒剤では出穂期、粉剤では穂揃期に防除を行う。
- (7) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。
- (8) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守など安全で効果的な防除に努める。

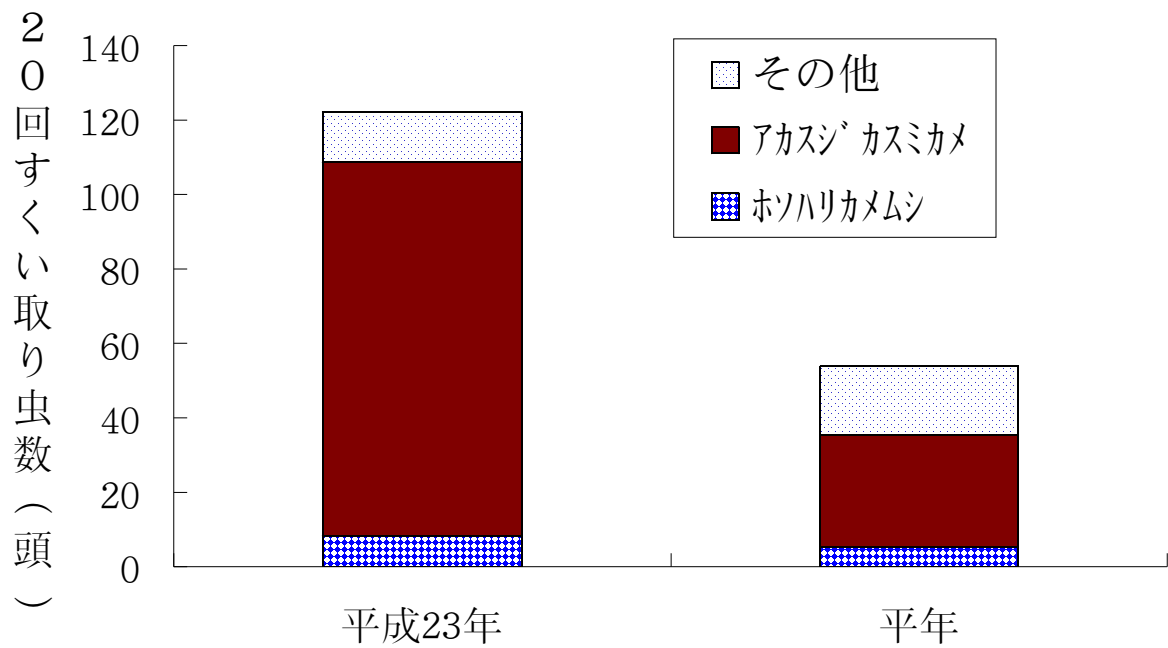


図1 雑草地でのすくい取り調査結果（7月11～14日）

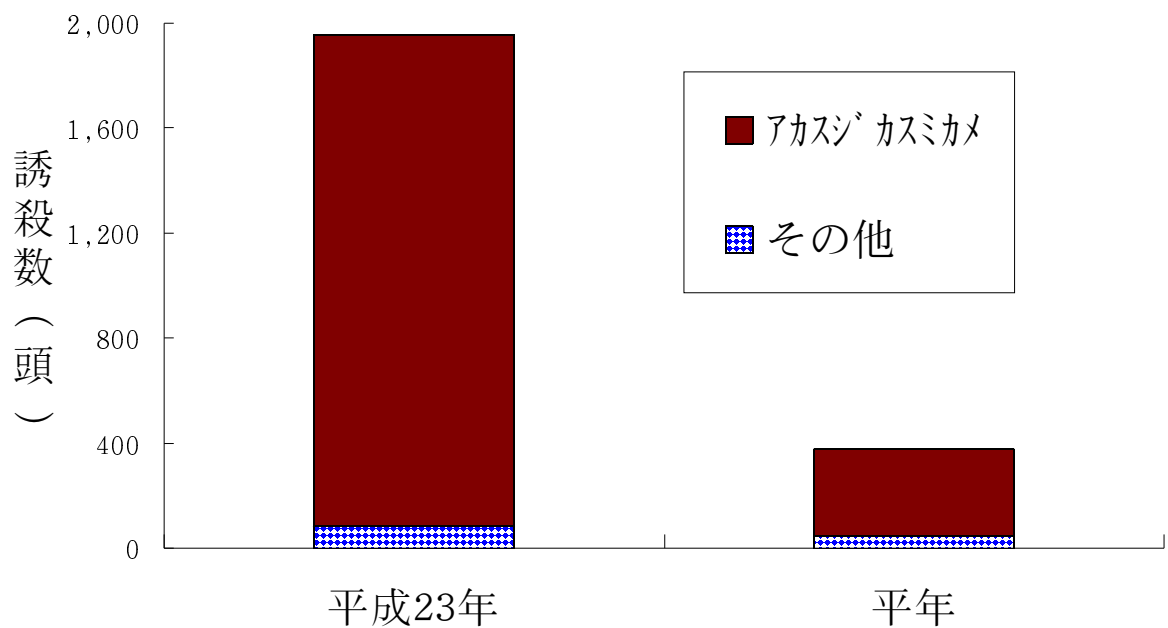


図2 県内予察灯(4か所)における6月1日～7月5日の斑点米カメムシ類の誘殺数



アカスジカスミカメ(体長5～6mm)



ホソハリカメムシ(体長9～11mm)